

2017年9月20日 全5頁

Indicators Update

2017年8月貿易統計

世界的な半導体需要の高まりに伴い輸出の増勢続く

経済調査部
エコノミスト 笠原 滝平
エコノミスト 小林 俊介

[要約]

- 2017年8月の貿易統計によると、輸出金額は前年比+18.1%と、前月（同+13.4%）からプラス幅が拡大した。アジア向け輸出数量などの増加幅が拡大したことが要因となった。8月の税関長公示レートは110.77円/ドルと、前年比で見ると7.3%の円安水準であった。
- 季節調整値で見た輸出金額は前月比+1.2%と2ヶ月連続、輸出数量は同+2.7%（季節調整値は大和総研による）と4ヶ月連続で増加した。輸出数量を地域別に見ると、アジア向けが同+3.6%と増加した一方、米国向けが同▲2.2%、EU向けが同▲1.7%と減少した。
- 先行きの輸出について、海外経済が底堅い成長を続けるなか、緩やかな増加基調をたどるとみている。ただし、外需に関しては下振れリスクに警戒が必要である。特に、米国ではFedが利上げと保有資産の圧縮を行うことが見込まれ、これに伴い、米国経済の減速や新興国市場からの資金流出を招く可能性がある。

図表1：貿易統計の概況（原系列、前年比、%）

	2016年		2017年						
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
輸出金額	5.4	1.3	11.3	12.0	7.4	14.9	9.6	13.4	18.1
コンセンサス									14.3
DIR予想									14.6
輸入金額	▲2.5	8.4	1.3	15.9	15.2	17.9	15.5	16.3	15.2
輸出数量	8.4	▲0.3	8.3	6.6	4.2	7.5	4.0	2.6	10.4
価格	▲2.7	1.6	2.8	5.0	3.2	6.9	5.5	10.5	7.0
輸入数量	3.6	6.3	▲4.3	4.2	4.9	5.4	4.2	3.2	2.4
価格	▲5.9	2.0	5.8	11.3	9.8	11.8	10.8	12.7	12.5
貿易収支	6,359	▲10,919	8,111	6,103	4,792	▲2,064	4,414	4,217	1,136

（注1）貿易収支は億円。

（注2）コンセンサスはBloomberg。

（出所）財務省、Bloombergより大和総研作成

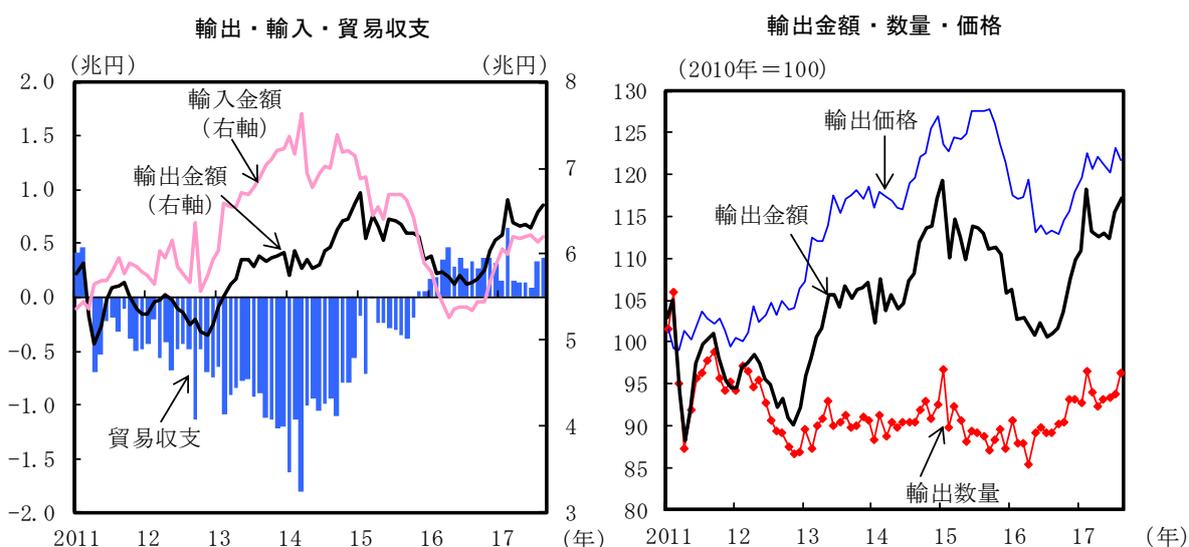
貿易収支は3ヶ月連続の黒字

2017年8月の貿易統計によると、貿易収支は+1,136億円と3ヶ月連続の黒字となった。輸出金額は前年比+18.1%（市場コンセンサス：同+14.3%）と前月（同+13.4%）からプラス幅が拡大、輸入金額は同+15.2%と前月（同+16.3%）からプラス幅が僅かに縮小した。

輸出・輸入金額を数量要因と価格要因に分解すると、輸出金額の数量要因はアジア向け輸出などがけん引し、増加幅が拡大した。輸入金額は数量要因が小幅な増加に留まるものの、輸入価格が上昇したことが輸入金額全体を押し上げた。8月の税関長公示レートは110.77円/ドルと、前年比で見ると7.3%の円安水準であったことが輸出・輸入の価格上昇要因であったと考えられる。

季節調整値で見ると、輸出金額は前月比+1.2%、輸入金額は同+1.2%となった結果、貿易収支は3,673億円の黒字となり、前月（3,631億円の黒字）から黒字幅が拡大した。

図表2：輸出金額・数量・価格、貿易収支（季節調整値）



(注) 輸出数量、輸出価格の季節調整は大和総研。
(出所) 財務省統計より大和総研作成

アジア向け輸出が全体をけん引

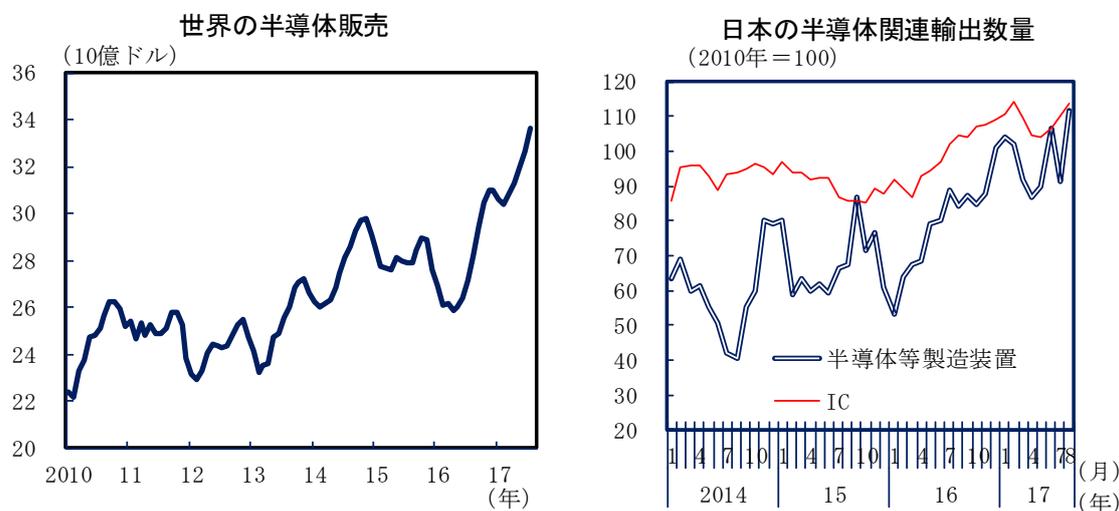
輸出数量（大和総研による季節調整値）は前月比+2.7%と前月（同+0.4%）から増加幅が拡大し、増加は4ヶ月連続となった。

地域別に見ると、全体をけん引したのは前月比+3.6%と増加幅が拡大したアジア向け輸出であった。アジア向け輸出では、主にICや中国向けの半導体等製造装置の伸びが大きかったとみられる。一方で米国向けは、米国の自動車販売市場が鈍化傾向にあるにもかかわらず日本からの自動車輸出は増加したが、自動車部品などの落ち込みにより全体としては同▲2.2%とマイナスの伸びとなった。最近急増している米国向け半導体等製造装置の輸出は8月も高水準を維

持した。引き続き反動減には注意が必要だ。EU 向けは前月に大幅な増加が見られた自動車部品の反動減などにより同▲1.7%と減少が続いた。EU 向けは3ヶ月連続で減少しているが、船舶や自動車関連の振れが影響しているとみられる。EU の景気は改善傾向にあるため、EU 向け輸出のトレンドは緩やかな増加基調となるだろう。

なお、このところ増加が著しい半導体等製造装置の輸出は世界的な半導体需要の高まりが背景にあると考えられる。これは、自動車の自動運転化に向けた動きや AI（人工知能）、IoT（モノのインターネット）の活用などが進んでいるためだろう。特に半導体等製造装置は振れが大きいと、輸出数量のかく乱要因となりうるが、基調としては増加が続くと見ている。

図表3：世界の半導体需要と日本の輸出動向



(注1) 世界の半導体販売は後方3ヶ月移動平均値。

(注2) 半導体関連輸出数量は大和総研による季節調整値。

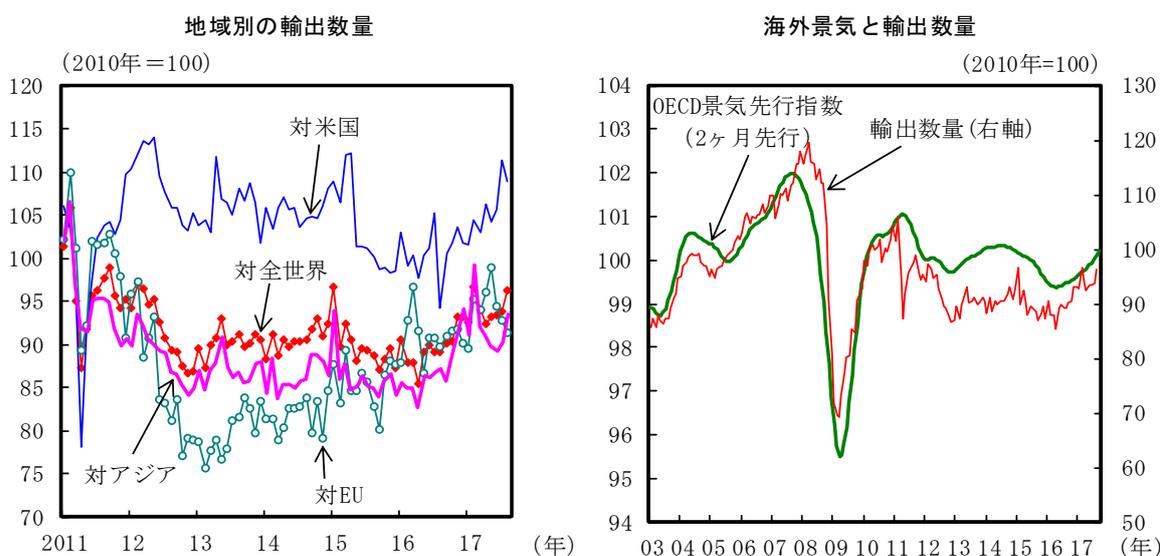
(出所) 財務省、SIA資料より大和総研作成

輸出数量の見通しは緩やかな増加基調

先行きの輸出について、海外経済が底堅い成長を続けるなか、緩やかな増加基調をたどるとみている。世界的な半導体需要の高まりを背景に、振れを伴いながらも米国やアジア向けの半導体や半導体等製造装置などの輸出も増加傾向となる見込み。自動車販売に弱さが見られるものの、米国経済は回復基調にあり、米国向け輸出は緩やかに増加する見込み。また、欧州経済はこれまでの景気けん引役であった個人消費に加えて、足下では設備投資などの固定資本形成も伸びており、バランスの良い景気拡大局面へ移行しているため、EU 向け輸出は拡大が見込まれる。

ただし、外需の下振れリスクには警戒が必要である。米国では、Fed が 2017 年 6 月に利上げを実施し、年内に更なる利上げと保有資産の圧縮を行うことが見込まれる。これらに伴い米国の金利が上昇する場合には、米国経済の下押し圧力になることに加えて、新興国市場からの資金流出を招く可能性がある。また、EU においても来年以降の資産買い入れの圧縮（テーパリング）などが今秋に発表される可能性があり、同様に EU 経済の下押し圧力となりうる点に留意が必要だろう。また、足下で北朝鮮をめぐる地政学的リスクの高まりが見られ、為替市場の変動を通じた貿易への悪影響に懸念がある。

図表 4：地域別の輸出数量、海外景気と輸出数量（季節調整値）



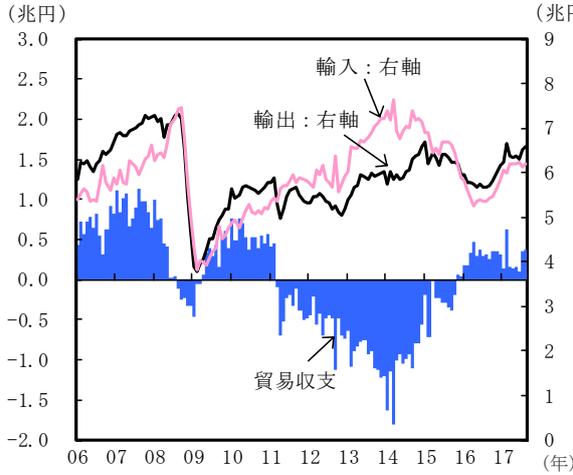
(注1) OECD景気先行指数(CLI)はOECD諸国とBRICsなど非加盟6ヶ国を集計したベース。

(注2) 輸出数量の季節調整は大和総研。

(出所) 財務省、OECD統計より大和総研作成

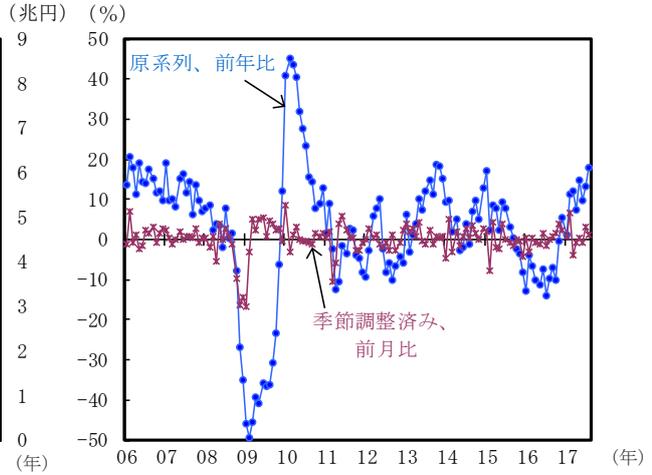
概況

輸出入と貿易収支 (名目、季節調整値)

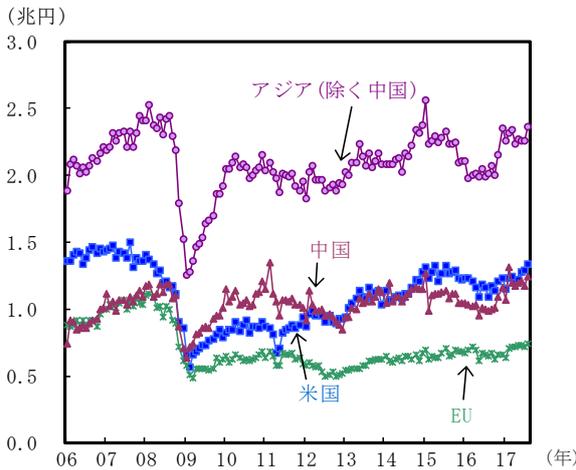


(出所) 財務省統計より大和総研作成

輸出額の変化率 (名目)

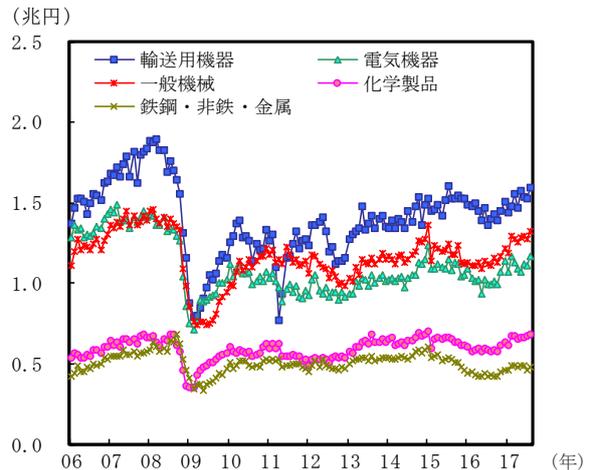


主要地域・国別の輸出額 (名目、季節調整値)

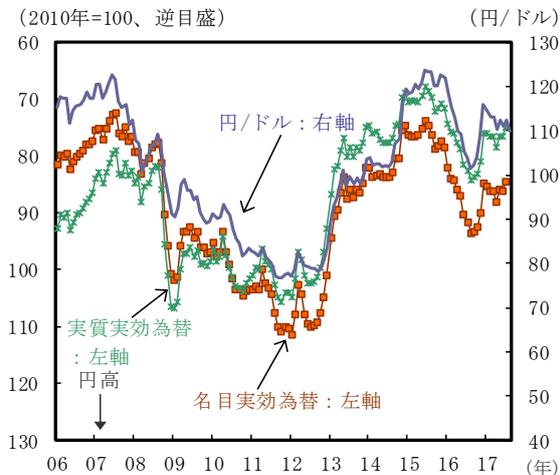


(注) 季節調整は大和総研。
(出所) 財務省統計より大和総研作成

主要商品別の輸出額 (名目、季節調整値)



為替相場



(注) 交易条件は、輸出価格指数/輸入価格指数(輸出物価指数/輸入物価指数)。
(出所) 財務省、日本銀行統計より大和総研作成

交易条件

